

【作品に書かれた文字(釈文)】

2 観音

観音よ私は世にもあわれな男でした西も東も分りません義理も人情も知りません 観音よ 私は世にもあわれな男でした
種種諸悪趣 地獄鬼畜生

人さまの御氣嫌を損じただけです人さまの下さるつめたいお皿は私をこんなみじめなものにしたのです 観音よ私にごはんを
食べさせて下さいあたたいかい一碗の ごはんだけで何の不足もないのです

生老病死苦 以漸悉令滅

観音よ 風は寒いものでした雨はつめたいものでした わたしは顫ふる入いりてゐたのです しかし此處まで来たのです あなたに觸ら
せて下さいあなたの手や足に觸らせて下さい

衆生被困厄 無量苦逼身 観音妙智力 能救世間苦

真観清浄観 廣大智慧観 悲観及慈観 常願常瞻仰

観音よ わたしはあなたを抱いてみよう あなたを始終ながめてみようそしていつまでも生きてみよう わたしはちつともさび
しくはないのだ わたしには好きな女もあつたやうな気がするがそれは何かの 化けものだったのだらうかわたしは當てもなく
歩いてきたのだが あなたのところまで来られたのだ これからはあなたを抱いて行かう

観音よ あなたは静かだ わたしを中に入れて下さい あなたの格子戸をあけさせて下さい あなたの障子をしめさせて下さい
この古ぼけた哀愁の外套を脱がせて下さい この摺り切れた苦惱の靴を脱がせて下さい

妙音観世音 梵音海潮音 勝彼世間音 是故須常念

観音よ あなたの乳をよく飲んで眠る赤んぼにして下さい ああ あなたは静かだ

3 白いきじ／贈黄山胡公求白鷗(李白の詩)

請以雙白璧 買君雙白鷗

白鷗白如錦 白雪恥容顏

照影玉潭裏 刷毛琪樹間

夜棲寒月靜 朝步落華閑

我願得此鳥 翫之坐碧山

胡公能輟贈 籠寄野人還

25 富士山

麓には桃や櫻や杏々き むらがる花花に蝶は舞ひ 億萬萬の蝶は舞ひ 七色の霞たなびく

夢みるわたしの 富士の祭典

ぐるりいちめん花はナギ ぐるりいちめん蝶は舞ひ 昔からの楽器のすべては鳴り出すのだ 種時きのように 鳥はあつまり
日本のすべての 鳥はあつまり 楽器といっしょに 歌つてゐる

夢みる わたしの 富士の祭典

七色の霞は 雪に映え 七色の陽炎になって ゆらゆらする 鹿や猪や熊や馬 人はゐないか 人もゐるゐる へうたんの酒や
女の舞ひ 標野の人も 歌っている

夢みる わたしの 富士の祭典

遠く遠く大雪嶺からは黄鳥が 使者になって 花を啣えて 渡つてくる
三つの海を 渡つてくる

26 芭蕉ノ山河(其二)

芭蕉の山河は夢みる山河 そして幻の山河だった

「月日は百代の過客にして行きかふ年も 又旅人也……」といひながら 曾良との旅 一歳月を永遠の旅人と観てみた
この旅を終えた元禄二季 芭蕉は伊勢 から故郷の伊賀へと長野峠を越えた 山の天気は變りやすく秋の峠はしぐれてゐた
初しぐれ 猿も 小みのをほしげなり

世にいう芭蕉の 猿蓑塚はこの峠にある杉の 木立の木もれ 日を浴びて 秋がくればしつとりと露にぬれる

いまは峠を急行バス が往き來して猿たちは 山深く厭世の退却をしてみました 元禄七季 芭蕉は壽貞の初盆會を故郷の
上野で悲しんだ 家はみな 杖に白髪 の墓参り 集まった近親のめつきり白くなった髪をみて 移りゆく歳月と壽貞

への愛愁は句に慟哭となって美しく宿った

夏がゆき秋がたち 芭蕉は大坂に向う がこれが 故郷のさいごとは誰にもわからなかった 旅舎の花屋についたとき
はげしい下痢におかされてゐたのだ 友の訪れて青ざめるなかで 供の次郎兵衛は日記に「朝鮮人參を買ひに走つたり天満宮へ
願をかけ たり……」と あわただしさを書きのこしている

旅に病て夢は枯野をかけまわる

「これは辞世にあらざる辞世にあらざるにもあらざる 病中の吟なり 生死の一大事を前に置きいかに

生涯好みし風流とは言いながら 是も妄執の 一つといふべけん いまは ほんなし」
といいながら十月十二日に花屋の夕ぐれをかの 元禄の大詩人はひとり天へ還つていった 壽 五十一
日目の人生を旅とみて 風雅の神にさそわれ るまま 生きぬいた芭蕉の魂は江戸という 封建社会に生きる 庶民の哀歎と結び
つきいまでも永遠の 旅をつづける 芭蕉の山河は夢みる山河 そして幻の山河だった

伊賀上野の住人 莫山 これを記す 昭和六十季 四月 日十二

27 山ノ四季

雪ノ朝。小鳥ハ木ノ実サガシテトビマワル。藪 カゲノ明ルサ。小道ハ白ク。イタチノ足跡。
山雀ノ群レテクル庭。水ヌルム。山里ハ 田螺ノ戀唄。バラードハメダカノ踊リ。ドコヘユクノカ雲ハレル。山カラアレハ誰ノ口笛。
マツ赤ニモエルカンゾウノ花。蕭條。尼寺ノ鐘ノ音。コオロギノ翅ノ 淡イ残照。
霜ハ降り。咲キノコル野菊ノ白サ ソロソロ風ハ山ノ向ウニ。

32 吉野ノ清流 (大和八景)

紙漉ク女ハ裳裾ヲ 濡ラシ流レル水ヲ 神トイウ

33 二上山暮色 (大和八景)

トロイデ火山ハ静マリテ女岳男岳ヲ 拝ム里 尼上嶽ト誰カ言ウ

34 東大寺ノ松林 (大和八景)

天平ノ薨ニ淡キスイカズラ千古ノ夢ヲ明ケニマドロム

35 室生寺ノ塔 (大和八景)

山デ生マレタ山雀ハ 塔ノ雫テ身ヲ濯ギ 羊齒ノ林ノ恋ニ酔ウ

36 宇陀野ノ丘 (大和八景)

東ノ野ニ炎ノ立ツ見エテ： 獲物枕ニ雑木ノ丘デ イマハ昔ノ夢ハネムル

37 明日香ノ野 (大和八景)

持統ノ社ノカタカゲデ 白い地酒ヲクミカワシ 忘レル夢ニ酔オウトシテモ 明日香ノ石ハ 乾イタママダ

38 大台山ノ朝 (大和八景)

雲力烟力里ナキ山ヲ 丹砂背負ヒテ娘ガ帰ル 小袖ハ露ニ濡レテモ

39 柳生街道ノ仏 (大和八景)

誰モトオラヌ瀧坂道デ タ陽観音頼ヲ染メ

40 城ノ石垣 (伊賀八景)

伊賀上野ノ城ノ石垣ハ 日本ニ高くテ美シイ。ガ戦國ノ世 ツイニオ城ハ タタナダ。今アル城ハナンノ 昭和ノ城デアル。淡イ
光デ石垣ガ ナントナク悲シゲナノガ美シイ。

41 湯屋谷ノ寺 (伊賀八景)

寺デハ千古ノ秘佛ガ眠リ 昔ハ向ヒノ谷間カラ白イ湯烟ガ立ツテ中タ。里ノ名ハ湯屋谷。寺ハ蓮徳寺。里ノ名モ寺名モ コヨナク
昔ラシノバセル。

42 赤目ノ滝 (伊賀八景)

赤目ノ瀧ハ靈験無双。古クハ役小角ノ行場ダツタ。數拾ノ瀧ノ名ハトテモヨイ。岩窟、大日、毘沙門、不動、布曳、千手、行者ナド。
瀧ノ音カラ 佛ガ浮カビ 瀑布ノ白サニ手ヲ合ワセタクナル。

43 里カラ里へ (伊賀八景)

四方山ニ囲マレタ伊賀ノ國。里カラ里ヘト水ガ流レリ。

44 青山高原ノ風 (伊賀八景)

青山ノ高原カラ風ガ立チ。ユレテ流レテ伊賀ノ國ヲ青ク染メル。

45 芭蕉故郷塚 (伊賀八景)

元禄七季拾月拾二日。「大阪八御堂ノ花屋デ息タエタ」ト芭蕉終焉ノ知ラセハ散ツタ。芭蕉ハ「近江ノ粟津ニ葬フレ」ト言イノコシ

テ中タ。知ラセヲ聞イタ土芳ト貞袋ハ、アワタダシク伊賀カラ近江ヘト走り、二人ハ遺髪ヲ持ツテ帰ツタ。ソノ遺髪ヲ埋メタノガ愛染院ノコノ故郷塚ダトイウ。芭蕉ノ山河ハ夢ミル山河。ソシテ幻ノ山河デアッタ。

46 赤門(崇廣堂)(伊賀八景)

藩校崇廣堂ノ西ニ赤門ガアル。昔モ昔ノ姿ノママダ。白イ壁ハハゲ落チテ、ヤルセナイ寂寥ガ人ノ心ヲカキタテル。

47 靈山ノ雪(伊賀八景)

淡イ化粧ノ靈山ノフトコロ深く観音ハ眠ル。

48 高雄山寺

高雄ノ山デハ山鳥ガ啼キ 薰烟ユラメク佛ノ夢ハ 昨日モ今日モ古ク高ク

49 鐘ノ音

春ハ花 夏ハ雲 秋ハ日 鐘ノ音ハ昔ノママダ

50 古キ仏ハ

古キ佛ハ花ニ酔ヒ 風アルトキハ風ニ酔フ

51 村ハズレ

柱時計ハトマツタママダ 猫ガ背ノビヲシテキル 村ノハズレノ晝サガリ

52 寺町界限

古イ寺ノ煤ケタ屋根ノスキマカラ 白イ煙ガ立チ騰リ 午ノ鐘ハ 叱ラレタ下駄ノ音ニ明ケ方ノ夢ヲカキタテル

53 曲阜ノ宴(中国余情)

黄昏コオモリハ空ニ舞ヒ 窓辺ニハ ヤモリガ ヤツテクル 今ハ昔ノ 曲阜ノ宴 山東曲阜ノ孔廟デ

54 揚州ノ黄昏(中国余情)

暮レナスム鉛色ノ一丈ドコカラカ埒へ帰ル鳥ノ聲 家ノ灯ハマダトモラナイ

55 古キ魏佛ハ(中国余情)

彼岸花古キ魏佛ハ顔ヲ染メ

56 紹興余情(中国余情)

レンガラ積ンダ木ノ船ハナゼカ今日ハヤツテコナイ アヒルモ岸へアガツタママダ

57 揚州余光(中国余情)

揚州ノ余光ハイマモ古城河ノ畔デ揺レテキル

58 村ノ家(中国余情)

青ニ染マツタ村ノ家カラ忘レタ唄ガキコエマス

59 去年生マレタ

去年生レタミミズクガライラックノミヲ オトシテイッタ。春ハメグツテ芽ノデタ曰。電話ノベルガ小ク鳴ツテ ニイハオニイハオ ジイチャンカ「タバコヤメタカ ヒゲオトシタカ」。。

60 麦ノ畑ヲ

唄ヲ忘レタコヒバリハ麦の畑ヲサガシテ中マス。

61 古イ砂漠ノ

古イ砂漠ノ白イアケボノ 娘ガヒトリ駱駝ノ影トヤツテクル

62 誰モ中ナイ部屋ニ

誰モイナ中部屋ニカケタ白ト黒ノ絵

63 自画像 Ⅲ

山ヲ眺メテ世ヲオモヒ 花ヲ眺メテ 人ヲ恋フ

64 寒山拾得

寒山「山へいこカ 川へいこカ」 拾得「イヤジャ 空へいこヨ」

65 寒山拾得II

寒山「山へいこカ 川へいこカ」 拾得「イヤジャ 空へいこヨ」

66 寒山拾得

寒山「山へいこカ 川へいこカ」 拾得「空へいこヨ」

67 良寛

花ヲ忘レ 日ニ背ラムケ 良寛八何ヲ 考エテキルノカ

68 李白

長安一片ノ月 李白

69 陶淵明ハ

雨ノ日ニハ雨ニ濡レ 風ノ日ニハ風ニ■揺レ

70 天平ノ首飾リ II

ハコネウツギヲ 古イ百済ノ壺ニイケ 遠イ天平ノ 首飾リヲ想フ

71 天平ノ首飾リ

ハコネウツギヲ 古イ百済ノ壺ニイケ 遠イ天平ノ 首飾リヲ想フ

72 白花ハ IV

白花ハ 黒イ花ノ 夢ヲミテキマス 黒イ花ハ 白花ノ 夢ヲミテキマス

73 小雀ノ恋ハ

小雀ノ戀ハ 林ヲワタリ 胡蝶ノ夢ハ 花ノナカ

74 トウガラシ

青クトモアルベキモノヲ 唐辛子 トイツタノハ 芭蕉 ソノウチニ燃エルヨウニ 赤クナル

75 青イナツパ

青ヨリ青イ 光ガユレテ 小鳥モ青イ ボレロヲウタウ

76 野路

モグラノカヨウ畦道デ 野路ノ葉ツパハ 群レテキタ

77 ダイコン

柱時計ハトマツタママダ。 誰モキナイ 昼サガリ。 裏山デ啼イテキルノ 八何ノ鳥。

78 ヒノナ

カナムイタ山ノ畑デ 女神ハヒノナヲ 夢色ニ染メテキタ

79 玉ネギ

雨ノヤンダ 靄ノ朝 牛乳ガコナカッタ。 靄ノ晴レタ 午サガリ 手紙ガコナカッタ。 夕刊コナイ 里ノ夕暮レ 玉ネギサゲタ 人がキテ 地藏峠デ 仔牛ガニツウマレタンデス。

80 イタドリ

村ノハズレデ 光ニ濡レテ 雨フラバフレ 風フカバフケ

81 砂山ノブドウ

砂山ノタソガレニ ウス紫ノ 笛ノ音

82 ザクロ

熟レタ 柘榴ハ 残照ニヒカル

83 ユズ

山ハヤブレタ夢ヲヒロイニイッタ 夢ハドコニモオチテイナカッタ 山ノ向ウニ虹ガデテキル ワタシハポケットニ
虹ヲ入レテ帰ッタ 虹ハツブレテオナカッタ

84 村ハズレ(ユズ)

時計ハトマッタママガヨイ 花ハ散ッタアトガヨイ 誰モ中■ナイ 村ハズレ

85 モモ

色ハ淡イノガヨイ 香りハホノカナノガヨイ 一ツヨリニツノホウガヨイ

86 マツタケ

赤松ノ林ヲユケバ 山ノ女神ノ淡イササヤキ

87 タケノコ

鳥ハナキ雲ハナガレル

88 タケノコ

青イ山 雲ハナガレル

89 胡蝶蘭

風アルトキハ風ニ酔ヒ

90 ボタン

妖艶サレド驕フズ

91 スイセン

何時ノマニ咲イテオタノカ 誰モシラナイ

92 リンドウ

リンドウ咲イテ恋ヲシル：…ソナ甘イ 唄ガアツタケド コノ龍胆ノ根ハ センブリト共ニ世ノ 中デ一番ニガイ 薬草トイウ。明ル
イ野道ノカタワラデ 龍胆ガ咲クト 風ガツメタクナツテクル。

93 カレイ

潮クルトキハ潮ニ酔ヒ 風クルトキハ風ニ酔フ

94 エビ

磯ノ香りハ風ニノリ 海女ノ娘ハ浪ニノリ ワタシヤ海藻ヲナガメテル

95 ヤマメ

流レノ音モ風ノ香りモ

96 カニ

人皆直行 吾独横行

97 トルコノ壺

早蕨ハトルコノ壺ノ戀ニ酔イ

98 瘦白ノ修羅

瘦白ノ修羅ニ青ザメタ羅漢ノホホエミ

99 虹ノデタ朝

虹ノデタ朝 シツポノキレタ 青イ蛙ガ 芋洗ウ 女ヲ見ツメテ ケロケロ 頬ヲ染メル

100 誰モ中■ナイ部屋

誰モ中■ナイ部屋ニカケタ白ト黒ノ繪

101 白イ夢

朝ノコナイ夜ノ夢 白ヨリシロイ夢デシタ

102 砂漠ノオアシス

古イ砂漠ノオアシスデ 銀色ノ魚ガオヨイデキマス。 詩人ノ杜甫ガヤツテキテイイマシタ 『白魚白キノト一寸』

103 修羅羅漢

瘦白ノ修羅ニ 青ザメタ羅漢ノホホエミ

104 干シ鱒

干シ鱒月ハ碎ケテ海ニニル

105 梵音海潮音

梵音海潮音

106 雪力夢幻カ

人影淡キ湖ノ家 照ラスハ 雪力夢幻カ

107 愛しみ

ひたひたと 寄せてくる この愛しみは なんだろう ほろほろと こぼれ落ちる この涙粒は なんだろう あなたはとうに 無窮の 銀河系を 飛んでいる 戦々もない 涙もない 悠かなる 蒼天を――。

108 難民

チヨモ・ラリの峰は きょうもガス体に煙って 不気味な国境に 野生ランの匂いがこぼれている 男はふと 妻の日焼けした 皮膚を思い出した 男はこれほど 妻をいとおしく 思ったことはなかった カリペ(サようなら) 男は胸をふるわせて つぶやいた それから二日め 銃声が密林にこだまして 馬とともに 男は昇天した